

（ 山間地域と市街地の交流を図る「地域活性局」 ）

山間地域と市街地の交流・活性化を図っている奈良大学学生グループの会社「地域活性局」（代表取締役藤丸正明、メンバー11人）が、10月5日、奈良市中院町に「奈良町情報館」をオープン。

藤丸氏は、大学1年生（平成16年）の頃から、奈良の食をテーマとした地域づくりを考えており、賛同する仲間を集め、グループを作った。

同年、当グループが吉野郡川上村を訪れた時、村の助役から、澄んだ空気と水と無農薬で育てられている野菜を紹介された。これなら、市街地のならまちで売れば、喜ばれると感じた。

平成17年10月より、川上村高原地区の農家と契約をして、タマネギ、大根、キャベツ、フキ、白菜、サラダホウレンソウ、辛味大根、大和マナなどを月に一度ならまち付近で「特産品市」と称して販売を始めた。

販売当初は、商品の選択や在庫管理の方法などの課題が山積みとなり、農家からは学生の仕事だから卒業したら止めるなどと言われ、厳しい状況が続いた。

藤丸氏は卒業してもこの仕事を続けると約束し、課題を一つひとつ解決し、農家の信頼も得て順調に進むようになった。

野菜の人気の理由は、品質の高さ、直販体制により収穫した翌日に店頭に並び新鮮なこと、生産地がはっきりしていること。

今年6月からは、ならまちの飲食店2店舗と提携し、お店で調理する野菜を週に1回配達することを始めており、順調に売上を伸ばしてきた。

なお、「特産品市」の販売所は、今年10月から奈良町情報館の前で行っている。

「奈良町情報館」は、元興寺の近くにあり、ならまち地区内の観光や飲食店の情報を集積・発信する観光案内所の機能を果たしている。

メンバーは、情報館へ立ち寄る観光客に、ならまち散策マップを渡し、散策コース、神社・寺の由来や、このまちの成り立ちなどを丁寧に説明している。

今後、奈良の夜を盛り上げようと、毎月「夜の目」を一日決め、ジャズやボサノバのライブ、寄席、お坊さんの説教などのイベントを作り、観光客をもてなすなどの構想を持っている。（上田）



「奈良町情報館」前での「特産品市」



川上村生産農家と地域活性局のメンバー

問合せ先：奈良町情報館
住所：奈良市中院町21番地
TEL：0742-26-8610

セミナーだより

●奈良大学・南都銀行 産学連携事業（主催：奈良大学、株式会社南都銀行） ～セミナー「奈良時代の西大寺」および西大寺「大茶盛式」体験～

第1部：セミナー「奈良時代の西大寺」

「奈良大学・南都銀行 産学連携事業」の第一弾としてセミナーを実施。奈良大学文学部教授東野治之氏が「奈良時代の西大寺」と題して講演を行った。同氏は、奈良時代の西大寺の状況や当時流通した貨幣等について詳しく説明。

第2部：西大寺「大茶盛式」体験

会場を移動し、西大寺にて「大茶盛式」を体験。巨大な茶碗に入ったお茶を回し飲みする「大茶盛式」は、地元人でも参加する機会が少ないことから、貴重な体験が得られた。

（2007.10.26 南都銀行西大寺支店セミナールーム（第1部）、西大寺（第2部）にて開催）